

災害多発国日本では、近年想定外の巨大地震や大型台風などの自然災害が頻繁に発生しており、日本各地に甚大な被害をもたらしている中、山と川に挟まれた乙訓は決して安全とは言い切れません。防災教育は乙訓の課題となり、その中で自分の命を自分で守る「生き抜く力」が最も重要と考え、主体的に行動できる子供たちを育てるとともに、乙訓地域がどんな状況におかれても安心して住むことができる乙訓（まち）にする必要があります。

まずは、文化少年団事業では、子供たちが災害時でも自らの力で考え行動できる「生き抜く力」を備えて頂くために、防災について自然資源の活用方法を学び、体験し、その後の行動を理解することで、災害時でも自分の命を自分で守る力を身に付けて頂きます。そして、5月例会では、災害時における共助の精神を学んで頂くために、教育機関とパートナーシップを築き、自らの住む乙訓（まち）の特徴や災害時にとるべき行動を理解して頂くことで、危機的状況下でも冷静な判断力を身に付けて頂きます。さらに、8月例会では、後に続く文化少年団事業で子供たちに防災体験をして頂くために、メンバー全員に防災の必要性を伝えることで、子供たちへ防災教育を行う意識の向上へと繋がります。また、ケイジャーズカップでは、子供たちが安全に競技を行うために、実行委員会と連携協力して大会運営を行うことで、子供たちにとって最高の思い出となるように努めます。そして、乙訓地方小学生駅伝大会では、子供たちが安全に競技を行うために、二市一町の行政、各諸団体と連携協力し、地域の温かさが実感できる最高の思い出となる事業へと協働します。

委員長として委員会メンバーに、新しい時代に必要な防災の知識や体験、青少年教育を通して得る責任感や学びの機会を創出します。そして最後には、我々の活動する乙訓（まち）の安全と子供たちの教育を担っていた自分を誇りに思える地域のリーダーになります。